

文化財センター通信
【かざぐるま】

風車

第 32 号

平成19年3月5日発行



紀州の歴史と文化の風

財団法人 和歌山県文化財センター

和歌山城跡発掘調査（県3次）

和歌山地方・家庭裁判所増築工事に伴う

和歌山城跡発掘調査I

本年度、平成18年9月から平成19年1月にかけて和歌山城跡三の丸の発掘調査を実施しました。

和歌山城は、紀ノ川によって形成された和歌山平野の中ほどにある虎伏山を中心に築かれています。丘陵から平野部の砂丘部分にかけて城域があり、いわゆる平山城と呼ばれるものです。その構造は、標高40～50mの虎伏山に天守閣と本丸を置き、周囲の砂丘部分を成形して二の丸、西の丸、砂の丸、南の丸などを配し、北から東側の砂丘および砂丘後背地に三の丸を置いています。

調査では江戸時代の堀・井戸・地下倉庫・石室状遺構のほか、和歌山城築城以前の柱穴などを確認することができました。

江戸時代に書かれた和歌山城下町の絵図は多く残されており、それらから今回の調査区の大部分は幕末近くまで紀州徳川家の上級家臣である山名氏の、幕末には豊島氏の屋敷地であったことが分かっています。

18世紀初め頃に書かれた「和歌山城下大絵図」には、間口・奥行など屋敷地の規模が克明に書かれており、その記載どおりの位置で屋敷地の境界である堀の遺構（土堀基礎・礎石列・柱穴列）を検出しました。

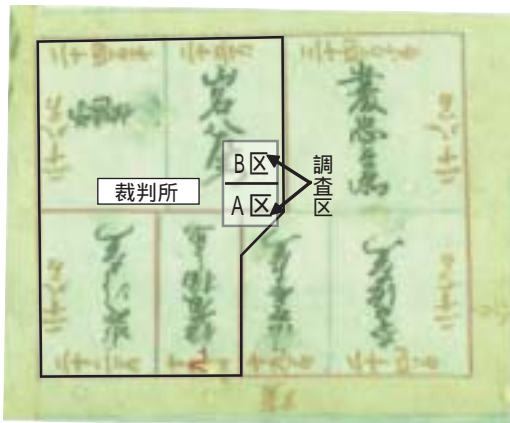
堀の遺構の下部からは、幅3m、深さ1.2mで一直線に伸びる溝状遺構を検出しました。溝内からはほとんど遺物が出土しないことから屋敷地を区切る溝とは考えにくく、調査区付近が屋敷地になる時に一気に埋め戻されたと想定できます。そのことから、和歌山城築城当初の織豊期の

- 第32号の主な内容 -

1. 和歌山城跡三の丸発掘調査
2. ホームページ
アクセス件数10,000件突破
3. お知らせ

堀である可能性があります。

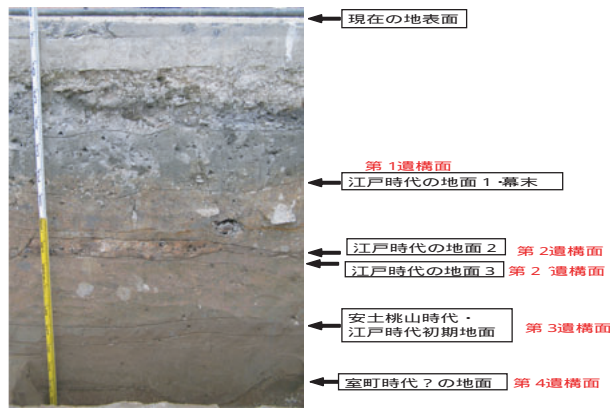
調査によって屋敷地内の内容・変遷が明らかになるとともに、和歌山城築城以前の様相を探る資料を得ることができました。
(川崎雅史)



和歌山城下大絵図

和歌山城跡発掘調査

土層と調査した面

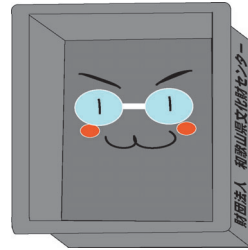


調査区付近は何度も土を盛って整地していることが明らかになりました。最も下位の面の高さとは江戸時代末頃の面の高さとは約1m近く違っており、大規模に整地がおこなわれています。和歌山城に関する面は4面確認しており、このほか城以前の室町時代の面を一面、そして昭和の空襲被災面を合わせると6面を調査することになります。

空襲被災面



どんなことがわかったのかな？
どういう意味があるんだろう？
詳しく見てみよう！



第1遺構面 A区



西端で塀の基礎と考えられる遺構

第二次世界大戦の昭和20(1945)年7月9日夜、アメリカ軍による大規模な戦略爆撃(和歌山大空襲)によって和歌山市街地の大部分とともに和歌山城の天守閣も焼失しました。この大空襲では死者千人以上、負傷者四千四百人以上を出したといわれ、調査区内の一部で、空襲で真っ赤に焼けた地面が見つかりました。

第1遺構面 B区



が見つかりました。この場所は絵図から想定した屋敷の境界と合致しません。このほかの遺構としては、ごみ捨て場と考えられる穴や石組みした溜枿などがあります。屋敷と考えられる建物は見つかっていないことから、A区付近は裏庭のような空閑地であった可能性があります。

東側では井戸や地下倉庫・埋桶などが見つかりました。明確な建物遺構は確認されていませんが、柱穴などが見つかっており、掘立柱の簡素な建物が存在した可能性があります。遺構の密度も西側のA区に比べ多いと言えます。

瓦積井戸



(第1遺構面 B区より)

瓦のカーブを上手く利用して隙間なく積み上げた井戸です。内径は約80cmで、深さは3m以上あります。

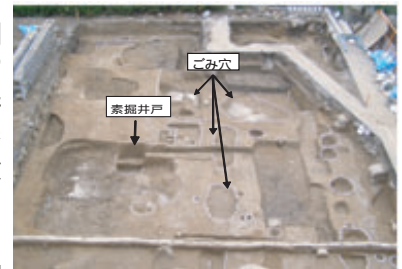
地下倉庫



(第1遺構面 B区より)

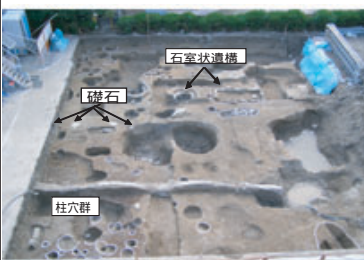
正方形に近い形で一边は約2.5mあります。4隅に柱を置く構造であったと考えられ、柱の痕跡と柱の根元に置いた据石が確認されました。

第2遺構面 A区



西側の上面で検出した堀の基礎の下で、大型の穴が並ぶ状況を確認しました。これらは屋敷の境界に関する柱穴の可能性がありますが、このほかの遺構には素掘井戸、ごみ穴と考えられる大きな穴があります。ごみ穴からは、多くの瓦や土器類のほかに動物の骨などが出土します。

第2遺構面 B区



西側のA区に比べ遺構の数が多くあります。建物のプランは想定できませんが、建物礎石や柱穴などが目につけており、この付近に何棟かの建物が建てられていたことがわかりました。このほか、大小2基の石室状遺構が見つっています。

第3遺構面 A区



A区では、幅約3m、深さ約1.2mの溝や大型土坑などを確認しました。溝の西側や南東隅で確認した柵跡は、第2遺構面から切り込まれたものです。溝は少し埋まった後、周辺の整地をおこなうのと同時に一気に埋め戻されています。溝にはほとんど遺物が入らないことから、この付近が屋敷地になる直前まで機能してい

た溝で、安土桃山時代（和歌山城築城当初の織豊期）のものである可能性もあります。

第3遺構面 B区

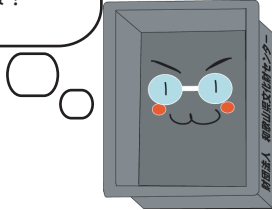
多くの柱穴や土坑、素掘井戸などが見つっています。近世の遺物が出土するものが少ないことから江戸時代以前の遺構が多いと考えられます。

総括

みなべ町平須賀城跡・市谷山城跡、白浜町八幡山城跡、御坊市小松原館跡、新宮市新宮城跡の発掘調査に関り、みなべ町高田土居城跡の報告書作成に携わるなど、とかく城跡とは縁があるようです。今回、和歌山城跡の調査を担当しましたが、数百年の間に地面を何度もかさ上げる整地をおこなっていることには驚きました。これが三の丸全体に及ぶとしたら凄い土木量であり、さすが御三家の紀州徳川!!! (川崎雅史)

ホームページ アクセス件数 10,000件突破

頻繁に更新している
ので、見に来て
くださいね！



広く当センターの活動について知っていただき、文化財に関心を持っていただこうと、平成十七年九月末にホームページを開設しました。
平成十八年五月十六日にリニューアルをし、平成十九年二月二十一日とうとうアクセス件数が一万件を突破いたしました。
知名度の低さもあり、最初はアクセス件数も少なめでしたが、リニューアルしてからは一日平均約三十前後のアクセスがありました。多くのアクセス、ありがとうございます。これからもわかりやすく、内容のあるホームページになるよう、努力して参ります。ご意見・ご感想などがあれば教えていただければ幸いです。(松山)

和歌山県文化財センター

検索

更新日 平成9年2月1日

財団法人 和歌山県文化財センター



文化財センターの紹介

埋蔵文化財

文化財建造物

刊行物リスト

イベント情報

和歌山県の歴史

キャラクター

リンク



野田地区遺跡(有田川町) 犁(からすき)



重要文化財 旧中筋家住宅(和歌山市)

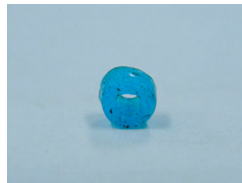


旧吉備中学校校庭遺跡 親子発掘体験(有田川町)

発掘調査

建造物保存修理

普及活動



旧吉備中学校校庭遺跡(有田川町) 弥生時代後期出土 ガラス玉



重要文化財 福勝寺(海南市)



歩いて知るきのくに歴史探訪 旧中筋家住宅他(和歌山市)

10000

風車 第32号

平成19年3月5日 発行

(財)和歌山県文化財センター

〒640-8404

和歌山市湊571-1

Tel : 073 (433) 3843

Fax : 073 (425) 4595

e-mail : maizou-1@wabunse.or.jp

URL http://www.wabunse.or.jp

《編集後記》 本年度ももうすぐ終わります。発掘調査・保存修理・整理作業・普及活動・報告書の作成…と大忙しの一年でした。残り1ヶ月、気を引き締めてがんばります。(川崎)

古墳時代後期の下駄 公開中!

にしいぶり 西飯降 遺跡から古墳時代後期の下駄(木製品)が出土しました。平成19年3月30日まで、きのくに歴史探訪館で下駄を展示します。詳細は、HPをご覧ください。(平日のみ開館)

